

とやま



県公連会報

第350号

令和6年7月23日

富山県公民館連合会

富山市舟橋北町7-1

富山県教育文化会館内

TEL・FAX (076) 444-5777

E-mail tomic07@iaa.itkeeper.ne.jp



立山仰ぐ早朝の草島海岸で「海をきれいにする活動」に励んでいます！（人見えるかなあ～？）



4年ぶりに復活した「オリエンテーリング」に子どもたちや親子連れの歓声が響きます



恒例の「秋の美術展」では、草島っ子たちも図工や絵画、書に親しみました



「成人式」から「はたちの集い」に変わっても、若者たちの装いは寒いこの季節に彩りを添えます

表紙写真

何気ない日常を健やかに過ごすために

富山市立草島公民館

草島公民館は、富山市北西部の和合地域にあり、富山湾に注ぐ神通川の左岸河口部に隣接して、火力発電所や多くの工場も立地しています。

かつて江戸への参勤交代路の加賀前田藩領の最終地点にあり、宿場町として発展が期待されましたが、度々神通川の洪水氾濫に遭い夢物語です。

当館には、地区の各種団体による行事や講座、サロン、公民館サークルが日常的に活発な活動をしており、今後も気持ちよく利用できる公民館であるために、一つ一つ丁寧に対応して参ります。

〈本号の主な内容〉

2面 ● 第18回定期評議員会

- ・ 会長挨拶
- ・ 本年度活動目標

3面 ● 初任者研修会

- ・ 講演概要
- ・ 委嘱公民館の発表

4面 ● わが町の公民館活動

- ・ 滑川市浜加積地区公民館
- ・ 小矢部市立南部公民館

5面 ● わが町の公民館活動

- ・ 朝日町立笹川公民館
- ・ 氷見市速川公民館

6面 ● 表彰館紹介

- ・ 高岡市立福岡公民館

第18回 定期評議員会開催



中西 彰 会長

第18回定期評議員会は、5月17日(金)に県教育文化会館において開催された。議事に先立って中西会長から挨拶があり、「年度当初の多忙が一段落した今、公民館活動の原点を見直すため、県公連発行の70周年記念誌『公民館活動の新たなステージ』や全公連発行の『月刊公民館』等を活用してほしい」、「コロナ禍の中で身に付けてきたハード面、ソフト面のデジタル活用に取り組んでほしい」の2点について話があった。

続いて来賓として出席していた、県教育委員会生涯学習・文化財室長辻ゆかり氏から、「公民館では、子供たちの健やかな成長を願い、さまざまに工夫された活動に取り組んでいただいております。『公民館 de つながるモデル事業』では、集合対面型の活動にデジタルを組み合わせた実践がなされ、早速、全国コンクールで受賞されるなど、工夫された活動を進めておられることに、皆様方のパワーを感じます。今年度は8市町村、10館のモデル公民館に参加していただきます。よろしく願いいたします。また今年10月、本県で『東海北陸社会教育研究大会』が開催されます。多くの皆様にご参加いただければ幸いです。」とのご挨拶があった。



辻ゆかり室長

等、地域社会の中で大きな役割を果たしている。しかし、近年の**少子高齢化の進行**や家族形態の変容などによる地域社会の絆の希薄化、**制度面での変革、自然災害の多発**、新型コロナウイルス感染予防をはじめ、多くの課題が顕在化し、公民館の管理・運営の柔軟な対応が求められている。

このような現状を踏まえ、我々は公民館が地域社会のかけがえのない拠り所となるよう不断に自らの在り方を見直し、今日的な役割や課題、新たな要請やニーズに対応すべく、自主的・自立的、効果的な運営に一層の工夫努力を重ねていかなければならない。

本会は、このような状況を踏まえ、地域コミュニティの向上のために、関係諸団体等との連携及び公民館相互の連携を一層密にし、地域の特性を生かした公民館活動が活発に展開されるよう努める。

令和6年度活動目標

- ・ 公民館の発信力を高めるとともに、地域の多様な関係団体等との連携・協働、地域の様々な人材の発掘、連携・活用等を促進する。
- ・ 地域の特性を生かした事業やまちづくり、**防災・減災、安全・安心の地域づくり**、人々の自由で主体的・創造的な学習活動の充実等を通して、地域の絆を築く取組を推進する。
- ・ 住民が地域に誇りと愛着をもち、青少年が地域に支えられて心身の成長を遂げられるよう、異世代交流や家族ぐるみ参加により、ふるさとの自然や歴史・文化等を、五感を通して体験的に学ぶふるさと教育活動の機会を充実する。
- ・ 地域の活力と住民の絆の基盤が、家庭、子供たちの成長にあることに鑑み、地域で子供たちを見守り育てる環境づくりに努める。
- ・ 地域のニーズを掘り起こし、多様化する要請に対応できるよう公民館職員の職務に応じ専門性を高める研修を充実して資質向上に努める。
- ・ **公民館施設の耐震化、バリアフリー化の推進**とともに、職員の常勤配置等を関係機関に働きかける。
- ・ **ウイズコロナでの活動の工夫やポストコロナでの学びの在り方を学びあい、これからの公民館活動に活かしていく。**
- ・ 大会・研修会や公民館での学びを発信したり、さらに活動の輪を広げたりするなど、学びを生かす活動を推進する。
- ・ **一人一人が生き生きと自分らしく暮らせるウェルビーイングの向上を目指す。**

令和6年度県公民館連合会役員

顧問	鹿熊 久三(富山市)	
会長	中西 彰(富山市)	
副会長	中村 茂信(富山市) 高井 清高(高岡市)	
	山浦 尚(魚津市) 山本 誠(砺波市)	
	岩坪智恵子(高岡市)	
理事	山口 吉弘(富山市) 武埴 二郎(富山市)	
	伊藤 和雄(富山市) 蒲田 幸雄(高岡市)	
	長堀 征雄(射水市) 小谷 超(氷見市)	
	永田 晋治(滑川市) 谷口 政芳(黒部市)	
	藤田 一彦(小矢部市) 松嶋 裕治(南砺市)	
	山崎 正晴(上市町) 吉崎 嗣憲(入善町)	
	黒田 千秋(富山市) 高林 洋恵(魚津市)	
	長田 朱美(小矢部市)	
監事	林原 克巳(射水市) 幅 昭雄(立山町)	
	影近 一美(砺波市)	
事務局	本田 正則 木本 聡子	

令和6年度活動方針

公民館は、地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、人々の教養と生活文化の向上や福祉の充実、健康の増進、地域の安全・安心の向上

※富山県公民館連合会のホームページに70周年記念誌をアップしていますのでご覧ください。



公民館運営の在り方、地域課題・住民ニーズの把握と事業企画を考える！

令和6年度 富山県公民館初任者研修会開催



激励のこたばを述べる河原課長

6月13日(木)、公民館初任者研修会は、72名が参加して県教育文化会館で開催された。

開会にあたり、来賓として出席していただいた、県教育委員会生涯学習・文化財室課長河原千恵子氏から、「全国的な人口減少や少子高齢化、コロナ禍、また地震等による自然災害の頻発により、今日の生活環境は大きく変化しています。『公民館』と一口に申ししましても、地域の事情が多岐に渡っており、その役割もますます大きなものになってきていると思われます。職員の皆様方には『つどう』『まなぶ』『むすぶ』の公民館の3つの機能を生かしながら、多様な人々とのつながりを大切にしたい取り組みを工夫、展開されています。本日の研修を機に、ますます公民館職員としての専門性を高め、いきいきと魅力ある地域コミュニティづくりにご尽力くださいますようお願い申し上げます。」との激励の言葉があった。

引き続き研修に入り、砺波市立庄川小学校校長坂本真紀氏による「公民館を楽しもう」の講演と、令和5年度研究委嘱館の発表を通して、研修を深めた。

【坂本氏の講演より】

○講演要旨

1. 公民館とは
 - ・公民館の機能
つどう・まなぶ・むすぶ
2. 公民館の運営のために
 - ・自分の公民館を知る
 - ・地域・人を知る
 - ・法律や市町村の動きを知る
3. 公民館職員とは
 - 職員の心得
 - ・市町村役場の職員・公務員という自覚をもつ
 - ・自分から挨拶を 先輩に学ぶ
 - ・住民に信頼される関係を目指す
 - ・やりすぎない 地域を実際にまわる
4. 公民館活動とは
 - 具体的な公民館活動
 - ・地域の生活に根ざした活動
 - ・子供のための活動・住民の教養を高める活動
 - ・地域の輪をつくる活動・その他の活動
 - これからの公民館活動
 - ・親子の活動、中高生の参加の工夫
 - ・高齢者の参加の工夫
(ニーズに合った新しい活動・デジタルの活用)
5. 公民館職員の方々へ エール
 - ・住んでいる地域が大好き！の気持ち
 - ・アイデアをだして参加者を増やすという情熱
 - ・自分が楽しむ

【研究委嘱館の発表より】

I 「地域における人的資源を生かした公民館活動の推進」

舟橋村立舟橋村公民館 館長 松下 雅人 氏



講演する坂本校長

1 主題について

様々な分野における専門性をもつ村民が講師となり、公民館事業や活動によって村民同士の繋がりが深まり、地域への愛着・活性化を目指す。

2 実践事例

農業が盛んな特徴を生かし、「親子わくわく農業体験」を実施した。サツマイモや枝豆の植え付けから収穫、調理までを村民の農業従事者や県栄養士会地域活動事業部の方が講師となり、親子に丁寧に教えていただいた。「舟橋村文化祭」では、村内の建築会社の方が講師となり、制作した作品を展示し、大好評。その他に、村在住のデザイン書道作家が中学校吹奏楽部の演奏に合わせ、書道パフォーマンスをした。村長提案の「弥栄(いやさか)」の文字を迫力ある筆さばきで披露され、大変盛り上がった。

3 成果と課題

身近な村民が講師となることにより、打合せなどが細かくでき結果的に良い事業となった。また、村民が公民館活動にも関心をもち、講師と参加者のあたたかな繋がりもできた。今後、村内の広報などで講師の募集も考えており、さらに魅力ある公民館を目指していきたい。

II 「住民が集い、学び、結び合う場を設定し、地域との連携を図る」

氷見市窪公民館 主事 西川 孝 氏

1 主題について

活動をコロナ禍以前に戻し、12種類の教養講座や12回の公民館事業、放課後子ども教室を月3回開催し、幅広い年齢の交流を深める。

2 実践事例

新規事業の「男性料理教室」では、慣れない手つきではあったが、和気あいあいと楽しく魚を捌くことができた。「教養講座のつどい」では、太極拳や詩吟など4講座の実技発表があり、芸術の秋を堪能した。「窪公民館まつり」では教養講座や地域の方々作品を展示し、来場者からは身近な方の趣味や特技の作品を見て会話が広がった。また、4年ぶりの絶品手打ちそばや茶席もあり、大勢の方でとても賑わった。この他に日帰り旅行やミニ門松づくり、講演会なども開催した。

3 成果と課題

公民館事業を通して、大勢の地域住民との交流や連帯感が深まり、校区のパワーを感じた。これからは、各事業の周知のため毎月配布の「窪公民館だより」をより一層充実して、世代間が交流できる場を企画・運営し、魅力あるより身近な公民館にしていきたい。



発表する松下館長



発表する西川主事

※富山県公民館連合会のホームページで、講演と実践発表の動画を配信していますのでご覧ください。



地域のきずなを大切に…

「公民館まつり」を年2回開催

浜加積地区は滑川市の東部に位置し、世帯数1,680件、全16町内会の閑静な地区です。

当地区では毎年、夏と秋に盛大な「公民館まつり」を開催しており、両まつりとも『地域のきずなを大切に……』を目標に地域内の各団体、町内会の共催・協力を受け、取り組んでいます。

夏まつりは、7月後半の土曜日の夕方から夜にかけて開催し、ステージイベントを中心に、児童クラブによるやさこパレードや保育園児による遊戯などの催し物と公民館推進委員や各種団体・町内会による飲食ブース、イベント店などを合わせて約20店出店して盛大に行っています。

秋まつりは、毎年11／3(祝)の日中に開催し、文化祭・収穫祭の要素を盛り込み、メインとして、地元JAや各種団体、町内会による即売会&屋台村を行っています。中でも「三世代交流餅つき体験」は、最近では家でつくことも少なくなったこともあり子供達には大変な人気で、行列が絶えないほどの賑わいをみせてくれています。体験の終わった後は、来場者全員につきたての餅を配布し

ています。

この「公民館まつり」は地域住民の『きずな』があるからこそつくりあげることのできるイベントです。また、沢山の地域住民が公民館へ足を運でくれる機会でもありますので、今後も楽しく華やかに継続したいと思います。



夏まつり金魚すくいの様子

わが町の公民館活動

小矢部市立南部公民館

地域の思いをサポート

南部公民館は、小矢部市の最南端に位置し、127戸の世帯と415人の人口を擁する小さな地域にある公民館です。この施設には地区が管理するプールが併設されており、夏季には「水難事故の防止講習」や「防火用水の点検と放水訓練」といった独自の活動が行われています。

この公民館を中心に活動している団体として「南部長寿会」があり、定期的な研修会や交流会を開催しています。また、敷地内の清掃や樹木の手入れにも積極的に協力してくれています。



疲れたけれど笑顔で記念写真

地域の活動の中で、地元の子どもたちにもっと地域のことを知ってほしいという声が上がりました。どの地域にも、観光名所とまでは言えなくても、歴史的や文化的、または科学的に重要な場所があるものです。そのようなスポットを紹介する地域の「お散歩マップ」が会員の手によって制作され、公民館に掲示されました。

さらに、このマップを実際に使って地域散歩をしようという企画も実行されました。児童会や婦人会とも協力し、公民館を出発点として子どもたちと一緒に地域のスポットを巡る行事です。第1回目は、令和4年6月12日にハッチョウトンボの生息地を訪れるという内容で行われました。現代の子どもたちは探検遊びをしなくなり、近所であっても初めて訪れる子どもが多く、地域の再発見と郷土への愛情が深まったのではないかと思います。

今後も公民館を通じて、地域の思いや声がアイデアとなり形になるようなサポートを続けていきたいと考えています。

ホタル舞う地区の すばらしさを発信！

朝日町立笹川公民館

笹川地区は朝日町の東部に位置し、周囲を山々に囲まれ、地元景勝地「名勝 七重滝（しっちゃだき）」を有するなど、自然に恵まれた地区です。

地区の世帯数は101世帯、人口は208人と朝日町の中でも小規模な地区であり、若者の人口流出による地域の活力低下が懸念されています。

地区では、子ども達も交え、ホタルの生息する環境学習のほか、舞い飛ぶホタルを観察する「ホタル観察会」を昭和61年から毎年開催しているほか、平成14年に集会施設「共生の里さ・郷」敷地内にホタルの生息池となるビオトープを設置し、ホタルの幼虫の餌となるカワニナの放流や定期清掃など、ホタルの生息環境整備を継続的に行っています。

令和3年より、魚津水族館の学芸員を講師に招き、実際に川に入って水中に住む生物を親子・祖父母などの三世代で観察する「水中生物観察会」を開催しています。

これらの活動を通して、地区住民とりわけ子ども達には自然豊かな環境の良さを再確認してもらうとともに、この環境をこれからも守っていく

という意識醸成につながればとの思いで継続に努めています。また、これらの活動は朝日町内全域で認識されており、他地区の子ども達などにも参加いただいています。

その他の活動としては、春・秋の祭りや文化祭、元日祝賀会の恒例活動のほか、近年では寺を会場にしたライブやしめなわ作り教室、クリスマスカード作り教室など新たな活動を実施するなど、学校や家庭で簡単には経験できないことを親子や三世代で一緒に楽しめる活動を多く企画するとともに、ホタル舞う環境の良い地区としての誇りも胸

に、笹川地区そして朝日町全体の活力向上のため引き続き取り組んでいきたいと考えています。



水中生物観察会

わが町の公民館活動

氷見市速川公民館

子どもを真ん中に 地域がつながる

速川地区は氷見市の西部に位置する中山間地で、小窪、田江、早借、小久米、日詰、日名田、三尾、床鍋、葛葉の9集落から構成される、人口約1,000人の地区です。人口減少が進む中、令和2年4月には、隣接する明和地区および久目地区を含めた3小学校と西部中学校が統合し義務教育学校「西の杜学園」が誕生しました。小中一貫教育を行う市内唯一の義務教育学校である西の杜学園は、英語教育やICT教育、ふるさと教育の充実等を柱としており、ALTを常勤で配置、教科担任制を実施するなど特色ある教育が行われています。

当公民館では、西の杜学園の小学生を対象とした様々な体験活動の機会を提供しており、農業体験では、春に田植え、秋に稲刈り、収穫したもち米を使った餅づくり体験、さらには公民館まつりでのもち販売体験を企画し、子ども達に生産から販売までを一貫して体験してもらう活動を行っています。子ども達からは「昔の農具を転がして苦労が分かった」「稲が大きく育っていて嬉しかった」といった感想が寄せられ、そうした声を聞く

たびに、活動に取り組んでよかったと感じています。

今年初めに起こった能登半島地震では、速川地区でも大きな被害を受けました。当公民館も避難所となり、1日目は子ども達を含む約50人が避難し、公民館に泊まりました。今回のような災害が起こった際、子どもからお年寄りまで、住民の皆さんが安心して集まることができるよう、普段から公民館に慣れ親しんでもらえるようなイベントを、今後も企画していきたいと思っています。



田植え体験

表彰館紹介

高岡市立福岡公民館 令和5年度全国公民館インターネット 活用コンクール金賞受賞

あなたの街に Zoom イン !!
～オンライン活用で
「つどう・まなぶ・むすぶ」～

高岡市福岡町は庄川と小矢部川の複合扇状地である砺波平野の末端に位置し、田園や西山の風景が美しい自然豊かな町です。福岡地区はその町部にあたり、加賀藩の参勤交代のルートとして整備された往還に面する住宅地で、1,204世帯、2,899人が居住しています。当館には令和6年4月から「高岡市福岡地域交流センター」が併設され、地域の交流拠点としてより一層期待が集まっています。

当館ではコロナ禍の令和3年から、公式 Instagram を通じてつながった全国各地の公民館等をお誘いして、Zoom を活用したオンライン交流会を開催しています。そのつながりも1道20県40公民館等に広がり、今では「インスタでつながる公民館」という名の交流ネットワークとなりました。各地の公民館等に集う住民の皆さまが主役となり、様々な企画で地域の魅力を発信し合う取り組みを行っています。

「全国ご当地クイズ Championship」では、公民館のふるさと学習で学んだことなどをもとに、子ども達が「ご当地クイズ」を作成します。全参加館からそのクイズを出題し合い、他館から出題されたクイズの正解数で全国チャンピオンを決定しています。

「オンラインでつなぐ全国ご当地体操教室」では、中継リレー形式で地域PRとともにご当地体操を紹介し合い、全員で身体を動かして健康づくりに励んでいます。

「MIRU × SHIRU マチ旅」では、地域住民が現地ガイドとなり、歴史や文化、観光名所を紹介し合います。行政発行の観光パンフレットやご当地銘菓を贈り合い、旅気分が味わえるよう工夫しています。

このように、本活動はかねてより公民館で行っていた講座をオンライン上にもってきたものとも言えますが、全国各地の公民館等をつなぐことが付加価値となり、参加者同士がよい刺激を受けながら学び合う姿がみられました。これからも住民の皆さまが公民館に集うことを楽しみにしてくださるよう、日常のようで非日常のようなワクワクする仕掛けを共に考え、対面とオンラインのバランスを取りながら、ゆるやかに活動を継続・発展させていけたらと考えています。



「全国ご当地クイズ Championship」クイズを出題する様子



「オンラインでつなぐ全国ご当地体操教室」集合写真



「オンラインでつなぐ全国ご当地体操教室」体操する様子



「MIRU × SHIRU マチ旅」雅楽の生演奏



「全国各地の100年フード」全館でいただきます！